

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	栄仁会グループホームおおわだの郷は、「地域の中に根付き、地域の中で愛され、地域の人々とともに歩む」を理念としており、常にそれを介護の中で実践するように心掛けている。	○	地域への啓蒙を更に進めていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、恒に地域との係りを大切にするように毎日心掛けていますが、十分なしえていとは言えない。	○	地域の催し物などには出来るだけ参加するようにしているが、事情で出れない事も多く、それにどう取り組んでいくかが課題となっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時には勿論、時々通信や面会時などには、地域との交流の大切さなどを話している。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の人とは、日々の挨拶や声掛けなどを行っているが、気軽に立ち寄ってもらえるような状況にまでは至っていない。	○	隣近所の方たちが気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気はどうすれば、醸し出す事が出来るかを地域の人々の認知症に対する理解を広める事を含めた考えて行く必要がある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、町内の催しや様々の地域活動に参加、協力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、町内における認知症の方の相談などにも取り組んでいるが、まだまだ活用されているとは言い難い。	○	グループホームの地域への貢献のひとつとして、近所で認知症でお困りの方などがおられたら、気軽の相談に来てもらえるような雰囲気作りや啓蒙が重要だと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価で明らかになった問題点や改善点について、外部評価を受けた直後は、意識的に実践しようと努力するが、時間の経つうちにいつの間にか以前の状態に戻ってしまうと言うのが現状である。	○	尻切れトンボとならないような対策を考える必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、利用者の家族、町内会の会長、地域包括支援センターの職員に集ってもらい、平素のグループホームの生活や取り組みを報告し、委員の方から質問や意見を聞いている。	○	運営推進会議などの場から、認知症への理解を広げるような試みを行って行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム運営上、不明な点や疑問点については、市の介護保険課の地域密着型サービスの係の職員に問い合わせるなどの連携を常に取りようしている。また、市の介護相談員を受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居されてから、成年後見制度を利用するようになられた入居者の方もおられる。入居者の権利や財産を守る上で、必要とあらば、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を積極的に活用していく事している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者が行っている日々の介護の中で、そうとは知らないうちに虐待に当たる行為を行っていないか、様々の資料を参考にしながら、虐待となるような行為をしまわぬように注意を払っている。	○	介護者ひとりひとりが今自分のしている事が虐待にあたるのではないかと問いかけを自分自身に向けて自問自答することが求められる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、利用契約書、重要事項説明書などを細かに説明し、疑問点があれば、納得してもらえるように説明を行っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受ける窓口を作り、細かい事も見逃す事なく、苦情との意識を持って対応する。また、苦情の出た背景、対応策、その実践を苦情を申し立てられた方に対して行う。また、市の介護相談員を受け入れ、職員に直接言えない様な事があれば、そのような人たちに相談や要望を伝えてもらえる場を提供している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などは、面会時や請求書送付時の挨拶文の中で報告を行っている。	○	面会時や挨拶文では、十分利用者の事業所での利用者の生活ぶりを伝える事が困難である。担当が利用者ひとりひとりのついて1ヶ月の生活の様子を記載して、ホームでの生活をより具体的で分かりやすいような形で報告するような方法を検討中である。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受ける窓口を設置し、管理者がその対応に当たる。苦情については、そういう事実があった事、それに対してどう対応したかを出来るだけ他の家族の方にも説明するようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回スタッフ介護を行い、入居者の方についてのカンファレンスや運営上の意見、問題点、などを話しあい、改善に向けた方略を話し合い、効果的と思われる事を実践に移している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来るだけ利用者の希望に合わせてるように取り計らっているが、職員の業務の都合を利用者の方に押し付けてしまうような事も多い。	○	例えば、入浴などは曜日によって、入浴する人が決まっておき、本人の希望を聞いて入ってもらっているとは言えない状況にある。職員の勤務形態と関わって来る問題でもあり、なかなか対策が立てられない。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職に際しては、その影響が出ないように個々人に合った対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所や、法人内の研修、また外部の研修など、様々の研修に参加するように促している。最低限京都府の実施する研修には順次受講する体制を整えているが、その他については時間的制約やマンパワーの問題もあり、十分行えているとは言えない。</p>	<p>○</p> <p>研修に出る事がもう少し容易に実現するような環境整備を整える必要がある。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京都府認知症グループホーム協議会に入会し、他のグループホームとの交流を図ったり、グループホーム同士で相互研修の機会を設けているが、単発的で、継続的なものになっていない。</p>	<p>○</p> <p>継続的に相互交流を図ることや多くのグループホームとの交流を進めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人本部の行う職員厚生行事に参加する事、あるいは担当理事や管理者が相談にのる事などを行っているが、システム化した体制はない。</p>	<p>○</p> <p>だれでもが利用できるようなストレスや悩みの解消のシステムを作る。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>正職員についてはひとりひとり勤務評価を行い、それに基づいて昇給制度がある。</p>	<p>○</p> <p>非常勤職員についても勤務評価制度を導入し、個々人の努力が報われるような制度作りを検討中である。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に当って面談を行い、本人の実情、入居を申し込むに至った経緯、どういう生活をしたいか、などを聞き、どういう生活が提供できるかを伝え、不安などを解消するようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に当って面談を行い、ご家族の思い、心配、本人にどのような生活を送ってほしいかなどを聞き、どういう生活が提供できるかを伝え、不安などを解消するようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にはご本人やご家族から現状や要望、グループホームに対する認識などを聞き、今何が必要か、他にどのような(医療や介護)サービスがあるか、を説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族から、その人の病状、人柄、趣味、嗜好、社会性、などを聞き、どのように導入の仕方がよいかをスタッフ間で検討し、出来るだけ不安なく、自然な形でグループホームの生活に入れるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する立場はいつも頭に置きながらも、入居者と生活を共にし、お互いの時間を共有する事によって、教えたり教えられたり、支えたり支えられたりしながら、自然な人間関係を築くようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時などは、出来るだけ家族に話しかけて、家族の思いをうかがうようにしている。面会の少ない家族もあり、家族の思いや希望を十分汲み取れていない。	○	更に家族との綿密な連携を図る。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホーム入居によって、本人と家族それぞれが距離を置いてお互いの関係を振り返ることが可能となり、客観的に見つめなおすことが出来、いままでとは違った関係の持ち方も可能となる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ家族や、知人などの訪問、あるいは外泊を進めているが、十分ではない。	○	面会、外泊など家族、親戚、知人などとの関係が途切れないようにする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの性格、個性、病状などを勘案しながら、利用者同士が孤立することなく、他の入居者と良好な関係を築くことが出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何らかの理由で退居される場合には、どういった生活が最善かを本人、家族等と相談し、退居された後も、定期的に訪問や連絡を取って関係を保つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人がグループホームでどのような生活がしたいかを出来るだけ把握するように努め、それに沿った支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には詳しい家族歴、生活歴、サービス利用歴を聞き、必要なら入居後にも、関係者に問い合わせるなどして、入居前にどのような生活を送っていたかを把握する。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人その人に合った生活を送ってもらう事を前提とし、日々の状態の変化に気を払い、臨機応変に対応し、出来るだけ安定して生活を送れるようにする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との面談、担当者同士、スタッフ会議、などの機会に本人の現状を話し合い、改善すべき点、更に推し進める点などを話し合い、それに沿った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや変化が生じた際の見直しを行っているが、十分とは言えない。	○	現状に即した介護計画を迅速に立てる工夫を努力をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護経過を記録に留め、すべての職員が情報を共有し合い、現状の介護方法の妥当性の検証や介護計画の見直しの活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の持つ多機能性を十分活かせていない。	○	気付いていない様々な支援のあり方に目を向ける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ、消防署との共同の防火訓練、などを行っているが、広範な連携、協力には至っていない。	○	運営推進会議などを活用して、様々な地域資源との交流をはかる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用は実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では地域包括支援センターとの協働は行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期的な診察、急変時の対応等、綿密な連携を取りあい、適切な医療を受けられるよう支援している。		

京都府：栄仁会グループホームおおわだの郷

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に物忘れ外来があり、定期的な診察、急変時の対応等、綿密な連携を取りあい、適切な医療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師資格を持つものがおり、恒に健康管理に留意している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、主治医と相談して、出来るだけ早期退院が可能なように依頼し、入院中も折に触れ、主治医や担当看護師と連絡を取り合っ、早期退院を心掛けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時などに本院や家族の要望を聞いているが、全員の十分な理解には至っていない。	○	常日頃から、将来の事について、どのように考えているかを十分話し合う機会を作る。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状での看護力や介護力から、事業所で可能な事と不可能な事を見極め、本人や家族に説明している。	○	前例がない事、従って介護職員に経験がない事が課題であり、介護能力の強化・向上や、事業所としての終末期に対する基本的なスタンスの確立と職員への指導・教育が必要である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活環境が変わる場合は、転居先との話し合いの中で、ホームでの今までの生活を含めた生活歴、日々の生活のあり方などの情報交換を行い、住み替えが出来るだけスムーズに行くように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとりひとりの人格を尊重し、プライドを損なう事のない対応をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	恒に入居者の言葉、表情、行動などに気を使い、本人が何を訴えたいのか、何を求めているのかを引き出すように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の都合を優先させる事がある。	○マンパワー、教務の段取りなどで、止むを得ない場合もあるが、出来るだけ入居者の都合を優先するような支援を行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい服装、化粧、髪型などが出来るように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好や嚥下力などを考慮した食事を提供している。食材の買物、調理、後片付けなどを一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人に嗜好に合わせた飲食物を提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄援助を行い、不快な思いをさせないように心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を職員の都合で決めている事が多い。出来るだけ入居者の都合で入浴してもらえるように努力しているが、入居者の希望を十分叶えられていない。	○	入居者の希望をすべて実現するには困難な問題が多いが、わずかな事でも可能な事から始めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の生活、睡眠時間、睡眠のとり方などに注意を払い、その時々状況に応じて、睡眠や覚醒を促し適切な休息や睡眠が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い頃から行ってきた趣味、たのしみ事などを日々の生活の中でしてもらおう事によって、充実した生活が送れるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理の可能な人には自分でお小遣いを持ってもらって、自分のほしいものなどの買物をしてもらっている。しかし、紛失の問題などがあり、職員が管理してしまう事が多い。	○	その人その人に合った金銭管理能力に従い、お金を所持、使用する大切さを持ってもらう工夫をする。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外出、日向ぼっこ、買物、など戸外に出てもらおう機会を設けているが、十分とは言えない。	○	こまめに戸外に出られるような工夫を考える。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その人の誕生日などを利用して、本人の希望はあっても普段は行けない様な所に、担当職員や気のあった入居と一緒にでかけられよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族などに電話をかけたいたりしてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	原則、面会はいつでも受け入れておる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的および精神的な拘束は行っていないつもりであるが、知らず知らずの内にしてしまっている事があるかもしれない。	○	拘束に関する資料による勉強会や研修を通じて、自分がしている介護が拘束に当たらないか、を恒に自問自答しながら、介護に当る。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、入居者がそれぞれ今どこにいるかを把握し、夜間は巡室を行い、恒に安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理の難しい人は職員が危険物を管理し、時々に応じて使用してもらおうようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々人特有の問題に注意を払い、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「緊急時対応マニュアル」、「消防マニュアル」を準備し、定期的に応急手当訓練、避難訓練などを行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の避難方法は定めている。地域の人々の協力については、運営推進会議等でその必要性について協力を得る努力はしているが、実現には至っていない。	○	地域に人たちの協力を得られるような働きかけが必要。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ホームの中で起こりうるリスクについては、入居時や面会時など折に触れて家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日日の生活の中での、表情、しぐさ、言動などに注意をはらい、普段と様子が異なる時には、バイタルサインのチェックなどを行い、それを職員が共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や処方の方法などを確認して、服薬支援している。また、処方の変更時は特に注意を払い、変化があれば、主治医や看護師に連絡をとり、相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ繊維質の食事を提供するように努めたり、体を動かすようにすすめたりして、自然排便しやすいように支援しているが、下剤を服用している人も多い。	○	薬に頼りすぎているきらいがあり、日々の生活の中での工夫が必要である。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや口腔ケアの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の食事摂取量を恒にチェックし、水分や食事量の過多に気をくばっている。不足勝ちの人には補食や補水をこまめにしてもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「感染予防対策マニュアル」を作成し、恒に手洗い、うがいによる予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には特に気を使い、賞味期限のチェック、調理器具、食器類の消毒、調理法の工夫、調理する者の入念な手洗いなどを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物を和風の木目を強調した、柔らかい、温かみのある色調で統一し、むしろ民家のような雰囲気を出し、介護施設らしさを出来るだけ見せないように心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの音が余り大きくならないように注意し、日差しについてもカーテンなどを工夫して、不快にならないように工夫している。また、生け花、季節感のある飾り物などを掛けて、季節感のある暮らしを心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の決まった食卓時の椅子以外に、ソファや椅子を用意しているが、少ない。	○	各個人が思い思いの所で、過ごせるような工夫が必要。廊下などにちょっと休める椅子を置いたりする工夫が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望やかって住み慣れていた場所に似た雰囲気にするなど、家族とも相談しながら、家具の種類や配置を工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館全てバリアフリーの構造となっており、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人の認知症の重度、理解力などを考慮して混乱や不安に陥る事のないように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内には庭と言える場所がないので、わずかな空間を見つけて、花を植えたり、プランターや鉢を置いたりして、利用者に世話をしてもらっている。近くに畑を借りているが、やや距離があり、あまり活用できていない。	○	畑に出かける機会を増やし、農作業など、土に親しむ生活を送ってもらおう。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来るだけ、その人その人に合ったサービスを心がけている。